

## 小学校 第3学年 社会科学習指導案

### 1 単元名：はたらく人とわたしたちの暮らし

小単元名：いろいろなお店（「店ではたらく人」に続く特設単元）

### 2 小単元の目標

- ・店には、地域の人々に役立ち、地域の活性化に役立つようにいろいろなお店があり、店ではたらく人は、地域の特色を考えお客さんに買ってもらえるよういろいろな工夫や努力をしていることを理解する。
- ・「道の駅」は、店ではたらく人、買い物に来る人、商品を出品する人、観光に訪れる人など、たくさんの人が関わっていることを知り、訪れる人を増やすために自分なりのアイデアを考えることができる。

### 3 小単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう姿勢
① 地域には、人々の生活を支えるいろいろなお店があることを理解できる。 ② 「道の駅」が各都道府県の国道や県道沿いにあり、地域の産物の販売や観光の紹介などを兼ねた施設であることを知る。	① いろいろなお店ではたらく人々は、商品の並べ方や売り方をどのように工夫しているか考えることができる。 ② 「道の駅」に関わる人々の話から、その人たちの工夫や思い、「道の駅」が抱える課題をつかむことができる。 ③ 「道の駅」の抱える課題を解決するための方策を考え、発表することができる。	① 自分のまちに「道の駅」をつくるとしたら、どこに、どのようなお店をつくらうかと意欲的に構想し、話し合うことができる。 ② 特に「道の駅」の観光的役割の視点から、地域の魅力に気づき、地域の一人として観光客に紹介しようと思えることができる。

### 4 教材の特色－「観光」の視点から

中心となる観光の要素：身近な地域の理解、郷土愛、地方創生、行政、観光産業 など

第3学年で扱う消費生活と販売の工夫では、スーパーマーケットなどの探検を通して学習を展開し、その他の多様な販売の在り方として、コンビニエンスストア、インターネット販売、移動販売に触れる。その際に、「道の駅」を取り上げたい。「道の駅」は、地域の憩いの場でもあり、地産地消の場でもあり、そして観光客が集まる場でもある。「道の駅」を訪れた経験がある児童は多いだろう。地域の販売・消費を支えるとともに、観光客を誘致する魅力ある場所である。「道の駅」がある場所や、働く人の願いや工夫を知ること、地域の観光の要素に気づいたり、観光資源としての魅力に気づいたりすることができる。販売の一形態である「地域の店」が地元の人々のみならず、観光客との接点にもなっていることに気づき、「観光」への気づきを促すことができる小単元である。



### 5 指導計画（13時間扱い）

- 第1時 自分たちがよく行くお店を調べよう
- 第2時 家の人がある店に行く理由を考えよう
- 第3時 スーパーマーケットのよい所を予想し、聞きたいことをまとめよう（学習問題をつくろう）
- 第4・5時 スーパーマーケットの売り場の特色を調べよう
- 第6・7時 お店の人たちの工夫を調べよう
- 第8・9時 品物はどこから運ばれてきているのか調べよう
- 第10・11時 スーパーにたくさんの方が訪れる理由をまとめよう
- 第12・13時 地域には他にもいろいろなお店があることを知り、「道の駅」について調べよう（本時）

### 6 本時（第12-13時間目／13時間扱い）

#### (1) 本時の目標

「道の駅」というお店は、地域の魅力・誇りを生かして、地元の人や観光のためのお店として喜ばれる工夫や努力をしていることを知り、自分たちなりのアイデアを考えるとともに、自分たちのまちの魅力や誇りを発見しそれを生かしたお店を考えることができる。

#### (2) 本時の展開

選	○学習活動 ・学習内容、予想される児童の反応	☆指導上の留意点、資料 【評価基準】（評価方法）
導入	○「道の駅」とはどんなお店か予想し、発表する。 ・旅行に行ったとき、駅のそばにあった。 ・近くの農家の人が、野菜などを売っている。 学習問題 「道の駅」というお店にはどのような特色があり、そこで働く人たちはどのような願いをもっているだろうか。	☆都道府県別「道の駅」の数を示した日本地図から、全国に1,100以上もある地域の取り組みであることを理解させる。
展開①	○複数の写真や地図から、「道の駅」の特徴を読み取る。 ・広い駐車場があり、車が多くとまっている。 ・お土産を売っていたり、買った物を食べられたりする。 ・トイレや休憩所がある。 ・大きな道沿いにある。	☆「道の駅」の外観、内観、施設の写真、立地の特徴が分かる地図を提示する。
	○「道の駅」に携わる人たちの話から、働く人の仕事の内容や工夫、願いを知り、ノートにまとめる。 ・観光に来た人には、施設の案内などもしている。 ・地域の名産を多くの人に知ってもらおう努力をしている。 ・地域の人にも観光客にも愛されるお店にしたいと思っている。	☆「道の駅」ではたらく人たちの工夫や努力、願いについての話を文章化し、配布する。
まとめ いかす	○「道の駅」に携わる人たちの願いを知り、自分たちの町に「道の駅」をつくるとしたら、どうしたらいいかグループで話し合い、発表する。 ・車で行きやすいように〇〇の近くにお店を作る。 ・近くの温泉のパンフレットを置く。 ・名産の〇〇を売って、テレビで紹介してもらう。	【思・判・表②】【主】 ・売上をあげる工夫や、自分たちのまちの魅力を生かしたお店づくりを、自分なりに考えることができる。（記述・発表）

## 小学校 第4学年 社会科学習指導案

### 1 単元名：特色ある地いきと人々の暮らし

小単元名：美しい景観を生かすまち

### 2 小単元の目標

- 宮城県松島町を例に、美しい景観を生かした地域の人々の生活に関心を持ち、美しい景観を生かして地域の資源を保護・活用している行政の取り組みやその地域で生活する人々の様子について考えたり、調べたりすることを通して、人々が協力し特色あるまちづくりや観光等の産業の発展に努めていることを理解する。
- 地域の資源を保護・活用している行政の取り組みやその地域で生活する人々の様子などの立場から多角的に考えて、地域の特色や地域の発展について考えようとする態度を養う。

### 3 小単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう姿勢
<ul style="list-style-type: none"> <li>景観を生かしてまちづくりしている地域では行政と地域住民が協力して資源を保護・活用しながら特色あるまちづくりや産業の発展に努めていることを理解している。</li> <li>インターネットや副読本などの資料を活用して、景観を生かして地域の資源を保護・活用している行政の取り組みやその地域で生活する人々の様子について必要な情報を集めたり、読み取ったりしてまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然資源を生かしてまちづくりを進めている地域の特色について、比較・分類したり、関連付けたり、総合したりして、その特質を適切に表現している。</li> <li>行政や地域住民（ボランティアを含む）などの立場から多角的に考えて、松島町の特色やこれからの美しい景観を生かした地域の発展について選択・判断している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美しい景観を生かした地域の人々の生活に関心を持ち、学習問題や予想を考え、意欲的に追究しようとしている。</li> </ul>

### 4 教材の特色－「観光」の視点から

**中心となる観光の要素：**郷土愛、地方創生、行政、観光産業、観光資源の創出、持続可能な観光、情報発信 など

本単元では宮城県の小学校を想定し、「地域の自然環境を保護・活用している地域」として松島町を取り上げる。松島町は、県内で最も多くの観光客が集まる地域であり、天橋立（京都府）や宮島（広島県）と並び「日本三景」にも選ばれている。約260もの島々が織り成す美しい風景は、平安時代の昔から和歌や詩歌に詠まれたほど有名であり、松尾芭蕉の「奥の細道」の旅のきっかけと言われる全国的な名勝地である。観光促進の視点から教材化することで、このような美しい景観を有する松島町の魅力やそれらを生かした産業の成り立ち、行政や地域住民の取り組みを知り、地域の発展について興味を持って考えることが期待できる。



### 5 指導計画（5時間扱い）

- 第1時 松島町の特色や松島町を訪れる観光客の傾向を理解し、学習問題を立てよう
- 第2時 観光客を増やすための取り組みについて、行政と地域住民の視点から調べよう
- 第3時 **観光課の職員や観光産業に携わる人から話を聞こう（本時）**
- 第4時 たくさんの観光客にきてもらうにはどうしたらいいか考えよう
- 第5時 松島町をアピールする4コマCMを作ろう

### 6 本時（第3時間目／5時間扱い）

#### (1) 本時の目標

松島町が美しい景観を生かして行っているまちづくり（取り組み）について、観光課の職員や観光産業に携わる人から話を聞いたりしてまとめることができる。

#### (2) 本時の展開

選	○学習活動 ・学習内容、予想される児童の反応	☆指導上の留意点、資料 【評価基準】（評価方法）
導入	<p>○前時の学習内容を振り返り、学習問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習問題 松島町では、美しい景観を生かしたまちづくりを進めるために、どのような取り組みを行っているのだろうか。</p> </div>	
展開	<p>○松島町では、美しい景観を生かしたまちづくりを行うために、どのような取り組みを行っているのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遊覧船で松島湾の景色を楽しめるようにしたり、自然体験等ができる催しを用意したりしている。</li> <li>地域住民と行政が協力して勉強会を実施したりしている。</li> </ul> <p>○松島町が美しい景観を生かしたまちづくりを進めるために行っている取り組みについて、観光課の職員や観光産業に携わる人から話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町や住民による新しい取り組み（松島子供英語ガイド等）がある。</li> </ul>	<p>☆副読本や教科書、観光課のパンフレットやホームページの内容を資料とする。</p> <p>☆観光課の職員や観光産業に携わる人から話を聞か際、写真や資料、教科書の本文と関連付けながら理解できるようにする。</p>
まとめ	<p>○調べたり、観光に携わる人から話を聞いたりしたことをノートにまとめ、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の魅力を国内外に宣伝・発信したり、観光客が訪れたいくなるような体験活動やイベントを実施したりしている。</li> <li>地域住民と行政が協力して自然環境を保護したり、景観について理解を深める勉強会を実施したりしている。</li> </ul> </div>	<p>【知・技②】</p> <p>インターネットや副読本などの資料を活用して、景観を生かして地域の資源を保護・活用している行政や人々の様子について必要な情報を集め、読み取ったことをまとめている。（発言・記述）</p>

## 小学校 第5学年 社会科学習指導案

### 1 単元名：わたしたちの国土

小単元名：人をひきつける土地の魅力

### 2 小単元の目標

- ・観光客が多く集まる沖縄の特色を整理し、自分たちの都道府県で当てはまるものを調べ、観光の魅力になるか考え、観光ポスターを作るアイデアを考える。

### 3 小単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう姿勢
① 沖縄に多くの観光客をひきつける土地の魅力があることや、自分がすむ都道府県にも魅力があることが分かっている。 ② 調べたい土地に関して、必要な情報を集め、読み取っている。	① 人をひきつける土地の魅力と観光について、学習問題や予想について考え表現する。 ② 沖縄の観光要素や自分が住む都道府県の土地の魅力について、調べたことや考えたことをもとに、言語などに適切に表現している。	① 自分が住む都道府県の土地の魅力に関心を持ち、進んで調べようとしている。

### 4 教材の特色－「観光」の視点から

中心となる観光の要素：身近な地域の理解、地方創生、行政、観光産業、訪日客の視点、情報発信

大単元「わたしたちの国土」において、世界の中の国土、国土の地形の特色、低い土地のくらしまたは高い土地のくらし、国土の気候の特色、あたたかい土地のくらしまたは寒い土地のくらしを学習した後に、本小単元を位置付ける。観光地としての沖縄に着目し、土地の魅力が観光資源につながることを考え、自分たちの土地にも観光資源となる要素がないか考えることで、土地の魅力を再確認し、愛着を持つようにする。

近年の観光のあり方は、見学する、食べる、土産を買うという従来の観光スタイルから、作る、一緒にやってみるといった体験型・交流型の観光の需要が増えつつある。体験型、交流型の観光においては、地域の人的・物的資源が重要となり、地域の魅力を伝えるとともに、活性化につながるという側面がある。一方で、日常生活環境に観光客が入り込むことで生じる問題もある。子どもたちが観光客に提供する魅力あるものとしての要素について観光地沖縄を事例にして考えることで、地域の観光に結びつく素材を見直し、自分の地域の観光のあり方を考えることができる。



### 5 指導計画（2時間扱い）

第1時 観光客が多く集まる沖縄の特色を整理しよう

第2時 自分たちの都道府県の観光の魅力をさがそう

### 6 本時（第1-2時間目／2時間扱い）

#### (1) 本時の目標

- ①観光客が多く集まる沖縄の特色を書き出し、見出しをつけて整理することができる。
- ②自分たちの都道府県の観光の魅力を考え、観光ポスターのアイデアを考えることができる。

#### (2) 本時の展開

選	○学習活動 ・学習内容、予想される児童の反応	☆指導上の留意点、資料 【評価基準】（評価方法）
導入	○沖縄は、観光客数が年間800万人を超えているのはなぜか考える。 学習問題 観光客が多集まる沖縄の特色を書き出して、見出しをつけて整理しよう。	
展開①	○沖縄の特色をカードに書き出し、考えを小グループで共有し、似ている考えを整理する。 ○学級全体で黒板を使ってカードをグルーピングし、そのグループに見出し< >をつける。 ・<気候> あたたかい気候 ・<文化> 首里城・グスクなど建築物、音楽・舞踊 ・<歴史> 戦争、琉球王国 ・<海洋・環境> 美しいビーチ、サンゴ礁	【思判表①】 観光客数のグラフやガイドブックなどを活用して、観光客が多く集まる理由を読み取ったり、表現したりしている。 （発言・記述）
展開②	○自分の県でその見出しに当てはまる観光素材になりそうなものを考え、小グループで話し合い、学級全体で共有する。 ○それらが観光の魅力となるかどうかについて話し合う。 ・自分たちには普通でも他地域の人には魅力を感じるものがあるかもしれない。 ・PRを工夫したら、魅力的になるものもあると思う。 学習問題 自分たちの都道府県の観光の魅力を考え、観光ポスターのアイデアを考えよう。	☆どの土地にも人をひきつける土地の魅力があることを確認する。
まとめ	○自分たちの都道府県の観光ポスターを作るとしたらどのようなキャッチコピーをつけて、どのような写真を掲載するか考える。	☆地域の観光課が製作したポスター、地域のガイドブック、観光協会のホームページなどを参考にすると良い。 【態度②】（学習の様子）

## 小学校 第5学年 社会科学習指導案

### 1 単元名：情報化した社会と産業の発展

小単元名：情報を生かす産業(4時間扱い)

### 2 小単元の目標

◎情報を生かす観光業の情報活用や人気観光地の秘密について、観光に携わる人々が行っている工夫(情報発信)や努力、観光客の情報活用の方法などに着目して、観光者向けの雑誌やHP等をもとに調査したり、考えたりすることを通して、観光業と観光客それぞれの情報活用の方法及びその影響について理解することができるようにする。

○情報を生かす観光業についての学習問題を意欲的に追究し、観光客・自治体(行政)・観光関連業者などの立場から多角的に考えて、これからの観光業の発展について考えようとする態度を養う。

### 3 小単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう姿勢
① 観光客は人気インターネットサイトの情報を活用して旅先を決めていること、自治体や観光関連業者は観光客の観光行動の特質を踏まえ、情報発信していることを理解している。 ② 地図や統計などの資料を活用して、情報を生かす観光業の様子や人気観光地の秘密について必要な情報を集めたり、読み取ったりしてまとめている。	① 観光に携わる人々が行っている工夫(情報発信)や観光客の情報活用の方法などに着目して、情報を生かす観光業の情報活用について考え、その特質を適切に表現している。 ② 観光客・自治体(行政)・観光関連業者などの立場から多角的に考えて、これからの観光業の発展の在り方を選択・判断している。	① 情報を生かす観光業の様子や人気観光地の秘密について関心をもち、学習問題や予想を考え、意欲的に追究しようとしている。 ② 情報を生かす観光業の現状を捉え、さまざまな情報を活用している観光業の発展について考えようとしている。

### 4 教材の特色－「観光」の視点から

中心となる観光の要素：地方創生、行政、情報発信 など



本単元は、新学習指導要領において「情報を生かして発展する産業」の中で、内容の取扱いとして「販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げる」と示されたことを受け、観光の視点から情報がどのように活用されているかを調べ、考えられる学習を構想した。外国人に人気の観光地として伏見稲荷大社(京都)を取り上げ、人気の秘密を解き明かすことによって、現代における観光者およびの自治体(行政)と観光関連業者の情報発信の特質とその活用の実態を捉えさせることができる。

さらに、観光が盛んになることによってもたらされる影響について考えさせる構成とすれば、現在深刻な社会問題として認識されているオーバーツーリズムの実態とその対策についても理解させることが期待される。発展学習として、本単元の学習した内容をもとに、「自分たちの身近な地域では、外国人観光客に対してどのような対応がされているのか」について、調べてみる学習を位置付けると、習得した知識を活用して考える機会が保証され、さらに有意義な学習となることが期待される。

### 5 指導計画(4時間扱い)

第1時 伏見稲荷大社が日本の観光地ランキングで第1位に選ばれている理由を考えよう(本時)

第2時 京都市が外国人観光客に快適に過ごしてもらうためにしていることを調べよう

第3・4時 京都市がさらに愛される観光地となる方策を考えよう

### 6 本時(第1時間目/4時間扱い)

#### (1) 本時の目標

伏見稲荷大社(京都府京都市)が6年連続で『外国人に人気の日本の観光スポットランキング』で第1位に選ばれ続けている理由について、「場所の魅力」と「口コミ(評価)」を視点に調査し、調査した内容をまとめることができる。

#### (2) 本時の展開

遷	○学習活動 ・学習内容、予想される児童の反応	☆指導上の留意点、資料 【評価基準】(評価方法)
導入	○日本で最も多くの外国人観光客が訪れる観光地はどこか予想する。  ○資料をもとに学習問題を立て、予想する。  学習問題 なぜ、伏見稲荷大社(京都府京都市)は、6年連続で『外国人に人気の日本の観光スポットランキング』で第1位に選ばれ続けているのだろうか。  ・伏見稲荷大社にしかない魅力があるからではないか。 ・SNS(口コミ・インスタ)などで伏見稲荷神社の評判が良いのではないか。	☆外国人に人気の観光スポットランキング2019(トリップアドバイザー)によると、伏見稲荷神社が1位(6年連続)
展開	○予想した内容をもとに、伏見稲荷大社に関する口コミや伏見稲荷大社スマホサイトなどを活用して学習問題について調べる。	☆教師側から適切なWEBサイトを紹介して調べさせたい。  【態①】情報を生かす観光業の様子や人気観光地の秘密について関心をもちようとしている。(学習の様子)
まとめ	○資料をもとに調べたことをまとめ、発表する。  ・伏見稲荷大社の、特に千本鳥居が外国人にとって神秘的な魅力を感じさせるのではないか。 ・実際に伏見稲荷大社を訪れた観光客が、ツイッターやインスタグラムといったSNSやメディア等を通じて紹介しているから。 ・京都駅から近く、アクセスが良いから。	

## 小学校 第6学年 社会科学習指導案

### 1 単元名：国の政治の仕組みと選挙

小単元名：「国会の働き」「内閣の働き」と観光

### 2 小単元の目標

- ・国会では、日本国憲法にもとづき「観光推進基本法」、「景観法」、「歴史まちづくり法」「食育基本法」「文化財保護法」を制定し、それが各地方の“観光によるまちの活性化”に大きな役割を担っていることを理解する。
- ・我が国や自分の地域の生活の安定と向上に向けた政治の取組を知り、我が国や郷土のために“まちの観光のあり方”や“外国人観光客への対応”について考え、発表することができる。

### 3 小単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう姿勢
① 観光立国日本の実現のため、「観光推進基本法」、「景観法」、「歴史まちづくり法」「文化財保護法」などの法律が制定されていることを理解することができる。	① 観光に関する法律の意義を考えたり、それらを実行するために内閣が取り組んでいる施策の内容を考察したりすることができる。 ② 我が国や郷土の自然景観や文化財、その他の観光施設の価値について判断し、国民の生活に安定と向上に役立てるための取組を考え、提案することができる。	① 観光に関する法律やそれに基づく内閣の働きを理解し、自分なりの提案を考えることで、我が国や郷土の発展に役立とうとする態度を示すことができる。

### 4 教材の特色－「観光」の視点から

中心となる観光の要素：地方創生、行政

「国会」、「内閣」、「司法」の学習は、児童たちの生活に極めて密接であるにもかかわらず、身近に感じにくい内容である。そのため、国会や内閣の働きを示す事例として、児童たちが家庭や学校で経験し、関連する単元で学習した「観光」に関する施策を取り上げることで、楽しさや身近さを感じられる魅力がある。

現在「観光立国日本」が掲げられ、その実現のために国会で景観や文化財を守る法律などが整えられたり、観光を推進する「観光庁」が国土交通省に設けられたりしている。こうしたことを学習することで、国会の働きや内閣の働きが、自分たちの生活に深くかかわっていることを理解することができる。

また、遠足や修学旅行で観光地に赴いた時、社会科学習において「観光」を事例に学んだ視点が生かされたり、「観光」の視点から地域発展のアイデアを考える時、我が国と地域社会の一員として役立とうと行動する態度を養ったりすることも期待できる効果的な教材といえる。



### 5 指導計画（7時間扱い）

- 第1時 国の政治はどのようにして行われているか予想しよう
- 第2時 国会の働きについて調べよう
- 第3時 国会議員選挙と税金の働きについて調べよう
- 第4時 内閣の働きについて調べよう
- 第5時 **観光を盛んにするために内閣が取り組んでいることを調べよう（本時）**
- 第6時 裁判所の働きについて調べよう
- 第7時 国の政治のしくみと選挙についてまとめよう

### 6 本時（第5時間目／7時間扱い）

#### (1) 本時の目標

国の経済を発展させるための方策の一つとして、観光を盛んにするための法律があり、その法律に基づいて内閣が取り組んでいることを知り、内閣の役割について理解することができる。

#### (2) 本時の展開

選	○学習活動 ・学習内容、予想される児童の反応	☆指導上の留意点、資料 【評価基準】（評価方法）
つかむ	○「県内の特色ある地域」の学習や旅先での経験を基に、「観光地」では人々がどんな工夫をしているか、発表する。 ・「観光客を増やそうとしている」「古いまちなみをいかす」「外国人観光客に英語で観光案内」など。 ○観光に関連した法律を提示し、その名称から児童が挙げた人々の工夫がどの法律に関係するか予想する。 ○本時の学習課題を知る。 学習問題 「観光」に関連した法律を基に、観光を盛んにするために国会や内閣が取り組んでいることを考え、理解しよう。	☆観光地の人々の取り組みと「観光立国日本」の政策がつながっていることを理解させる。
しらべる	○「観光」に関連した法律や、観光の推進に関わる内閣の組織があることを知り、わかったことをワークシートに記入する。 ・「観光」のことで法律があるんだ。 ・「観光」を盛んにするために内閣の省庁として、国土交通省の中に「観光庁」という役所がある。 ・内閣では、観光推進のための予算を決め、地方の取り組みを応援している。	【思・判①】観光に関する法律の意義を考えたり、観光推進のために内閣が取り組んでいる施策の内容を考察したりすることができる。
まとめ	○自分たちの地域の「観光」を盛んにするために、県や国に頼みたいことをグループで話し合い、1つにしぼって発表する。 ・自分たちでつくった観光パンフレットを印刷・配布する予算がほしい。 ・景色を楽しんでもらうため、遊歩道をつくってほしい。 ・観光客がゴミを捨てないように法律で禁止してほしい。	☆効果と実現性も考慮して、最も必要なことを考えさせる。

## 小学校 第6学年 社会科学習指導案

### 1 単元名：日本の歴史

小単元名：町人の文化と新しい学問(既存5時間+本時1時間の全6時間扱い)

### 2 小単元の目標

■社会が安定するにつれて町人の文化が栄え、新しい学問がおこったこと、新しい学問が次の時代への動きに影響を与えたことを知り、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産の意味を考えようとする。

□歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産から学習問題を見だし、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、思考・判断したことを適切に表現する。

### 3 小単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう姿勢
① 社会が安定するにつれて、町人の文化が栄え、新しい学問がおこったこと、こうした学問が新しい時代への動きに影響を与えたことが分かっている。 ② 文化財、地図や年表、その他の資料を活用して、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について、必要な情報を集め、読み取っている。	① 社会が安定するにつれて、どのような文化や学問が生まれたのかについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現することができる。	① 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産に関心を持ち、進んで調べようとしている。

### 4 教材の特色－「観光」の視点から

中心となる観光の要素：観光産業、観光資源の創出、観光促進

日本に「観光」の考え方が大衆に広がったのは江戸時代と言われている。日本古来の熊野詣などの「お参り」の旅に、社会が安定し、歌舞伎や浮世絵などの文化が生まれると同時に、歌舞伎を観に行きたい、浮世絵に描かれた美しい場所を見たいという欲求が重なり、信仰目的ならば移動の自由が許された背景から、「お伊勢参り」に代表される「旅」が人気となる。文政13年には5ヶ月足らずで427万人の参宮者があったと記録されている。

旅の道中に身体を休める湯治場や美しい景色が見られる場所が栄え、旅人への土産物の商売が始まった。いつしか、主たる目的は「信仰」ではなく、物見遊山の旅、つまり現代の「観光」となった。「観光」の視点から江戸文化の誕生と広がりを解き明かすことができ、江戸時代後期に浮世絵や歌舞伎などとともに「観光」も広がり、旅を通して大衆が得た見聞や知識が、次の時代への動きにも影響を与えたことを理解するのに効果的である。



### 5 指導計画（6時間扱い）

- 第1時 江戸や大阪のまちの様子や他の資料をもとにして、当時の社会について話し合おう
- 第2時 歌舞伎や浮世絵は、人々の間でどのように親しまれていったのか話し合おう
- 第3時 蘭学はどのような学問で、社会にどのような影響をあたえたのか調べよう
- 第4時 国学はどのような学問なのか。また、新しい時代への動きはどのようなものだったのか調べよう
- 第5時 学習問題について調べてきたことを表や文章に整理して発表しよう
- 第6時 **なぜ「観光」が江戸時代に広がったのか考えよう（本時）**

### 6 本時（第6時間目／6時間扱い）

#### (1) 本時の目標

なぜ「観光」が江戸時代に広がったのか考え、それを伝える作品を作りましょう。

#### (2) 本時の展開

選	○学習活動 ・学習内容、予想される児童の反応	☆指導上の留意点、資料 【評価基準】（評価方法）
導入	○浮世絵が流行した理由に、町人や百姓がお参りのための旅に行くようになったことがあげられるが、どんなお参りがあったのか調べる。 ・古くから信仰されてきた熊野詣、弘法大師を慕って高野詣、三大弁財天の江ノ島弁天への江ノ島詣、富士山でのご来光を目指す富士詣、伊勢神宮へのお伊勢参りなどがあつた。  学習問題 旅はどのように人びとに親しまれるようになったのでしょうか。	☆自由な移動は制限されていたが、信仰目的ならば許されていたことに気付かせたい。
展開	○なぜ多くの人々が旅をするようになったのか調べる。 ・落ち着いた平和な世の中になったから。 ・見聞を広げたいと思うようになったから。 ・魅力的な風景が描かれた歌川広重の浮世絵が人気だったから。  ○人が旅をするようになって、新たに生まれたものを調べる。 ・1810年に『旅行用心集』が刊行された。 ・温泉や景色を楽しんだり、お土産を買ったりすることが旅行の目的となり、現代に通じる「観光」が始まった。	☆「観光」は江戸時代に盛んになった日本の文化の一つであることをおさえる。
まとめ	○日本の観光の始まりを伝えるポスター・CM・パンフレットをつくる。  ・社会が安定し、物見遊山の旅の文化が開花した。 ・当時、現代の観光に結びつくシステムや要素がすでに庶民に広がっていた。	<思判表②> 学習したことをもとに、日本の観光の始まりの特徴や意義を考え、わかりやすく伝えるために内容を選択・判断して、発表することができる （発言・ノート）